はじめに

関東で**人気と伝統のある有名難関私大**に合格するための現代文対策講座です。メイン・ターゲットとして、**上智大・明治大・青山学院大・立教大・法政大・中央大・学習院大**を想定しています。

まず、これらの大学の現代文試験にて出題される文章は、**良質で、扱われているテーマにおいてモデルになるような文章**が多いと言えます。**それぞれの学問分野、学界にて注目の筆者**の手によるものであり、読書的な価値も高いと言えるものです。また、設問も、空欄補充、傍線部説明、記述、全体の主旨の理解など**総合的に現代文の読解力を問うもの**で、よく練られた良問が多いのが特徴です。奇問は少ない。入試の質にはその大学の面子がかかっていますから。なお、文章の量と難易度、設問の量と難易度も、ごく一部を除き、メイン・ターゲットの各大学は違いよりも共通点の方が多いと言えるでしょう。

そのため、上記のメイン・ターゲット内で併願する際にも、大学・学部を問わず共通の練習になります。さらにはこのターゲット以外を受験する上でも、この講座は恰好（かっこう）の練習素材を提供することになります。

なお、**やや特別な傾向**をもつものとして、**上智大経済学部・明治大法学部の「近代文語文」**が挙げられます。【トップ&ハイレベル現代文】【スタンダードレベル現代文】など既存の通年講座では扱っていないため、本講座の第二講で取り上げています。こうした「近代文語文」を課す大学としては、早稲田大（政治経済学部・文化構想学部）、一橋大などがあります。今回のメイン・ターゲットではありませんが、これらの大学の受験を考えている受験生は第二講を練習素材にしてください。なお、【早稲田大学現代文対策講座】の第二講・第六講で、「近代文語文」を取り上げています。こちらも参照してください。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ノートの取り方

テキストへの書き込みが基本です。**赤／青／緑**（黒板では緑ですが、第三の色であれば何色でもＯＫ）**の三色**をご用意ください。文章の対比を色分けして塗っていきます。主役キーワードが赤、敵役キーワードが青、脇役キーワードが緑です。

解法の手順

……**文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……**

少しでもはやく確実に読解するために

1　本文末の**書名＝タイトルをみる　→　テーマが判明**することが多い。さらには、「〇〇と△△」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある。

2　**設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわることが多い**）。タイトルの次は「キャスティング＝配役＝誰が出演するのか」に注目する。本編の前に「エンドロール」を見てしまう感じです。ただし**選択肢まで読んではダメ**。五択で四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。もっとも全選択肢の書き出しが共通ならば、そこは先に見てもよい。

3　**本文最後の数行をさきに**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。

4　**本文を冒頭から読み**、設問の傍線部や空欄にあたるたびに、選択肢を読み、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読みとおさないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

記述式問題解答へのガイドライン

1　**字数指定の八割以上書く**ことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）。なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり0点）

2　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**である（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

3　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ減点される（とくに略字は印象悪いよ！）

4　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「〜から。」「〜ので。」「〜ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a

	人	間	は	…

→　※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b

…	…	…	こ	と

→　※**句点なし！**（減点）

設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける。句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則。ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものはつけない）

c

…	…	…	こ	と。

→　※**句読点は一文字分！**（減点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

> ○具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
> ○対比の表現（ＡではなくＢである）！
> ○繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）

○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。

○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

語 ⇒ 心身
語句 ← 心身の一体性

（例）心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。この考察は、「道具」を見直す契機になる。

⇒ 一文・文

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 **対比混乱の誤り**……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2 **同一性分断の誤り**……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗。同質性分断**ともいう。

3 **正しい対比喪失の誤り**……本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「**C↔D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 **不当な全称判断**……本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 **不当な限定判断**……本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょう）があります。例えば本文では「人間関係全般」について書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 **不当な価値判断**（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

7 **部分的指摘の誤り**

……本文中では、「**AともにB**」「**Aと同時にB**」「**AしかもB**」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り**

……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なしの誤り**

……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1～8・10～12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り**

……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り**

……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢**。小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り**

……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる**

……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 **比喩による説明は、一段、落ちる**

……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予習の仕方

……必ず予習しましょう。映像講義を視聴しているだけでは、解答力は身に付きません。その上で、以下のようなプランが考えられますが、プランＣをオススメします。

プランＡ……映像授業を見る前にまず、自力で解答する
プランＢ……映像のチャプター１（タイトルと設問条件解説・最終段落先取り読み）まで見てから映像を止めて、解答する
プランＣ……第一講までプランＢで、解法の手順をしっかり学んだ後、第二講からプランＡ
プランＤ……現代文があまり得意ではない方は、第二講以降、ＡとＢを交互に繰り返す。例えば、偶数の講義ではプランＡ、奇数の講義ではプランＢというように

予習の時間　＝問題にアタックする演習時間

各講二〇分が基本です（ただし、以下のようなアレンジも可能です。パターンＣがオススメです）。

パターンＡ……右の基本時間通り
パターンＢ……時間設定にとらわれず、納得いくまで解答する
パターンＣ……基本時間通りで解答する講と、じっくり納得いくまで解答する講を交互に繰り返す。時間設定を気にするあまり、読み方や解法が雑になっては元も子もありません。かといって悠長に構えすぎてもダメ。本来入試は時間限定付きですから。そこで、じっくり解く回と本番を想定した回を交互に組み合わせましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目標得点……配点はしてありませんから、その講義ごとに、全何題中いくつできたのか、という得点率（例えば第四講なら全部で解答箇所が十七ありますから、十一以上が正解なら六十五%以上の得点率で目標クリア）

○　第一講～五講……**六十五%以上**
○　復習問題…………**八〇%以上**

復習の仕方について

予習と授業が柱ですが、復習するなら……

設問をもう一度解き直すというタイプの復習はオススメできません。勉強したような気になるだけで、現代文の場合、発展的な学習とは言えない。現代文入試問題での読解力・解答力を向上させるためには、同じ問題を解き直すのではなく、授業をモデルとして、問題集などで新しい問題に次々チャレンジしていきましょう。スタディサプリでも多くの講座が用意されています（メイン・ターゲット校の過去問を使っている講をまとめたページがあります。参考にしてください）。その文章・設問も、対比で読める・解けるようにする訓練を続けることが有効です。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

おすすめの問題集

『私大編　現代文のトレーニング　改訂版』（Z会出版）
『入試現代文へのアクセス　発展編』（河合出版）
『入試現代文へのアクセス　完成編』（河合出版）
『入試精選問題集　現代文』（河合出版）

教材選定について

- 関東難関私大の過去問の中から良問をセレクト
- 関東難関私大の現代文対策のモデルとなる設問をセレクト。アタックすることを通じて解答力を高められる設問ばかり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

既存の通年講座の該当箇所（上智・学習院・明治・青山学院・立教・法政・中央の問題を使用している箇所）

――こちらも合わせて活用してください――

高３　トップ&ハイレベル現代文

第三講《情報化社会論》　**第四講**《近代化論》
第七講《歴史論》　**第十三講**《弁証法》

高３　スタンダードレベル現代文

第二講《異文化理解論・文化人類学》　**第十講**《日本語論》
第十三講《民俗学》　**第十四講**《異文化理解論》
第十五講《家族論》　**第十七講**《戦争論》
第十九講《都市論・故郷論》　**第二十講**《文学論・文芸論》
第二十三講《日本文化論・建築論》

高１・高２　現代文

第二講《芸術論・日本文化論》　**第五講**その１《随筆　旅論》
第七講《随筆　宗教論》　**第九講**その１《哲学論》
第九講その２《文学論》　**第十三講**その１《趣味論・工芸論》

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　家族論・自己責任論……p.12
第二講　随筆（近代文語文）……p.20
付録（近代文語文）……p.31
第三講　言語論……p.36
第四講　日本文化論・弁証法……p.42
第五講　認識論・現代社会論……p.48

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　家族論・自己責任論

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

新聞の家庭欄の連載で「自己責任」に関する奇妙な用法をみつけました。まず、身近と思われる男女関係の問題に現れた「自己責任」という言葉から、考えてみることにしましょう。

山一証券だってつぶれるご時世、ブランド会社に入社しても一生安泰ではないことを、結婚に置き換えてみたらよくわかると思うんです。（中略）永遠に続く愛情なんてありません。結婚に対する社会や意識の制約が取り除かれれば、離婚や再婚が増えるのは当然です。そういう状況で求められる自己責任は、精神力と経済力。「夫に頼ればいい」から「自分の人生は自分で切り開く」への発想転換です。（中略）

恋愛という名の自由競争に突入すれば、男も女もうかうかできません。結婚しても危機感がつきまとうわけですから。三食昼寝つきの生活、おばさん化なんてしていられませんよ。（林真理子、一九九八年一月一日付「朝日新聞」）

就職と結婚を同等視する見方が出てきました。A「恋愛という名の自由競争」という言葉もあります。結婚相手をつかまえておけなければ、敗北で、それも「自己責任」だという考え方でしょう。家庭と会社（工場）とを同じレヴェルで見る考え方は、今世紀初めのアメリカ合衆国に現れた考え方です。

アメリカという移民国家は、家族の長い歴史を持った各国と違って「家」という安定的な空間のない社会です。その国では、指導的な社会学者が「家族は人間の人格を生産する工場（ファクトリー）である」（タルコット・パーソンズ）と定義する事態も生まれます。あるいは工場管理法であるテーラー・システムを家庭の経営のなかに持ち込もうとする動きさえ今世紀初めには生まれていたのです。『家庭の効率』（一九一二年）という本のなかでは、「家庭は市民の生産のための巨大工場の一部である」と書かれております。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

家の歴史のない米国だからこそ、近代社会で生み出されたにすぎない B「恋愛結婚」イデオロギーが蔓延（まんえん）したのです。「父―母―子」という閉鎖的な近代的家族のみが家族形態として理想化されたといえるでしょう。

自由な恋愛というのは、根強い幻想です。たとえば、第二次世界大戦後、戦前の C家父長制的な「家制度」から解放された家族について論じた法学者川島武宜は、D「仲間型」の夫婦関係が増大することが、日本社会の民主化につながるのだと論じました。

友情が成り立つ社会では、多くの恋愛関係には、まず多かれ少なかれ友情関係が先だつであろう。いいかえれば、恋愛は「人間」としての相互の認識の上にはじめて成りたつことになるであろう。（中略）そのような社会においてはじめて男が女を「征服」したり、女が男にだまされたりすることがなく、たがいに理性をもつ自由な独立の意思の主体者として、自分の責任において恋愛することが可能となるのである。（『日本の社会と生活意識』）

「自分の責任において恋愛する」という表現と「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立」するという戦後の憲法理念とは、確かに結びついております。別に私は好きな男女同士が結婚するというのがおかしいなどと言っているのではありません。また「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有する」（日本国憲法第二四条）という規定の背後に、戦前の旧民法下の「家制度」による青年男女への抑圧に対する明確な批判をみるがゆえに、その精神を尊ぶ気持ちはひと一倍あるつもりです。

しかし、結婚は、はたしてどの社会でも自由勝手なものでしょうか。なるほど、人を好きになるのは自由かもしれません。ただし相手がこちらに関心を持ってくれなければ、恋愛は成立しませんし、結婚となると、さらに壁が厚くなります。

人は、生まれてから家族や親族を含む社会関係のなかで生きています。何かを決定するときも、選択するときも、決して自分一人の判断で決めているわけではないのです。だれかしらの情報・知識、助言を必ず念頭に置いているはずです。あるいは生まれて育ってきた過程で身につけた交友関係（ネットワーク）のなかで選択の条件を勘案する力を育ててきたはずです。決してどこからの情報も助言もいれず一人で結婚相手を決めていることなどはないはずでしょう。

フランスの社会学者ピエール・ブルデューは婚姻を E「婚姻戦略にのっとったゲーム」だとみなしています。戦略といっても、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

理性的な計算や意識的なプログラムに基づくものと考えないでください。子どものころから、家や地域社会、学校、会社などで培われた、人間関係や家と家との関係を円滑に作り上げていくゲームの感覚に従って、手持ちカード（持っているさまざまな有利な条件）を考えて、婚姻を選択する思考方法のことを指すのです。

また、婚姻関係は、いやがおうでも、ある家族集団と別の家族集団とが協力関係のなかにはいることを示しています。たとえば、有賀喜左衛門などの仕事によれば、「結納」という習慣は、「ユイ」という密接な関係を持つ家族間もしくは数軒の組において行われる労働の互助交換を始めるにあたっての儀式だというのです。婚姻によってユイ関係を強化する意味で酒肴（しゅこう）の共同飲食が行われたのが、「結納」という習慣の始まりだったというのです。むろん、村の外の家との婚姻関係ではユイは結成できませんから、金品の贈答という形式に変わったわけです。

ですから、その社会集団間の関係が険悪であれば、その関係の修復が婚姻のためにクリアする条件となります。結婚する当人同士がさまざまな条件をクリアしてはじめて安定的な婚姻関係が成立するのです。

「［F］」という言葉は、ある意味で空語だというと、言い過ぎかもしれませんが、実は世界中どこにも存在しない事柄だと言っていいのです。

ウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』（一五九五年）をみてみましょう。この有名な悲劇は、本当に若い二人の「恋愛」を主題として描いたものなのでしょうか。私は、「ロミオとジュリエット」の世界は、まぎれもなく［G］悲劇だと思っています。シェイクスピア研究者の間でもこの悲劇はあまり論じられるところが少ないようで、私が参考になるような論文や書物にまだお目にかかっておりません。

そもそも、この二人の少年少女（作中でジュリエットは、あと二週間で十四歳になるところだとされます）の「恋愛」行為は当人同士も死んでしまい、対立している双方の属する社会集団にとって大変な「わざわい」を生むのです。「自分の責任において」恋愛しているつもりが、属する社会集団にとってとんでもない悲劇を起こしてしまうとするなら、そのとき「自分の責任」とはいったい何を意味するのでしょうか。

たとえば、シェイクスピアと同時代人の思想家フランシス・ベーコンは、『随想集』第二版（一六一二年）に収められた「恋愛について」という文章のなかで言っています。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

恋愛を認めずにはいられない場合でも、それを抑制して、人生の重大な事柄や行動からすっかり切り離す人々は、最善を尽くすことになる。恋愛がいったん本務と衝突したが最後、それは人々の運命を乱し、そのために人々は、自分自身の目的にどうしても添えなくなるからである。

当時の考え方からいけば当然のことだと思いますが、シェイクスピアも基本的には同じ立場にあっただろうと推測できます。近代の恋愛至上主義こそが、現在の一般的な「ロミオとジュリエット」に対する印象を形づくっているのではないでしょうか。婚姻は、本来、人類の歴史のなかで「社会集団間の近隣友好関係維持」のための行為の一つでした。「女の流通」（レヴィ＝ストロース）であれ、男の移動であれ、そうした相互の人間の交流が、平和維持のための方法の一つであったことは、間違いのないところです。

（桜井哲夫（さくらいてつお）『〈自己責任〉とは何か』による）

問１　傍線Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの中で、本文の筆者が肯定的に使っている語句が一つある。それを記号で答えなさい。

問２　空欄［Ｆ］に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選び、記号で答えなさい。

① たがいに安定的な条件を満たす結婚相手として、自分の正直な感情を無視して恋愛する
② たがいに自由な感情と判断力をもつ主体者として、人間関係や家と家との関係に配慮し恋愛する
③ たがいに協力関係にある家族集団の一員として、その協力関係をさらに強めるために恋愛する
④ たがいに理性をもつ自由な独立の意思の主体者として、自分の責任において恋愛する
⑤ たがいに険悪な関係にある社会集団の構成員として、その関係を修復するために恋愛する

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問３　空欄［G］に入れるのにもっとも適当と思うものを左の中から選び、記号で答えなさい。

①「婚姻」が社会集団の合意形成を必要とするので、純粋な二人が自己の責任において社会集団の合意にしたがおうとして生まれた

②「婚姻」が社会集団の合意形成を必要とするのに、幼い無分別な二人が情念のおもむくままにそれを無理に突破しようとして生まれた

③「婚姻」が社会集団の合意形成と無関係なのに、幼いが分別のある二人が社会集団の意思とあくまで対決しようとして生まれた

④「婚姻」が社会集団の合意形成と無関係なのに、純粋で世間知らずの二人が自分の責任で社会集団の合意形成を求めたことで生まれた

⑤「婚姻」が社会集団の合意形成を必要としないのに、幼く無防備な二人がそれを誤解して自分の責任と考えたところに生まれた

問４　次の文章のうち、本文の筆者の考えと合致していると思うものを一つ選び、記号で答えなさい。

①「自己責任」という視点から就職と結婚を同等視するのは、日本とアメリカの社会の違いを無視しているので誤りだ。

②恋愛といっても、自己責任に基づかない単なる情念による恋愛では無責任であり、社会的に認めることはできない。

③人間は交友のネットワークの中でゲーム感覚により結婚相手を探すので、結婚も自己責任によるゲームだ。

④人はいつでもいくつかの社会関係の中で生きているので、結婚相手の選択にもそういった要素が影響を与えている。

⑤自由な恋愛はめったになく、それだけ貴重なものなので、古来シェイクスピアなどの名作のテーマとなっていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　桜井哲夫＝さくらい　てつお（一九四九〜）栃木県生まれ、東京外国語大学フランス語学科卒。東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。社会学者

●林真理子＝はやし　まりこ（一九五四〜）山梨県生まれ、日本大学芸術学部文芸学科卒。直木賞作家

●タルコット・パーソンズ（一九〇二〜一九七九）ハーバード大学などで教鞭をとったアメリカを代表する社会学者

●川島武宜＝かわしま　たけよし（一九〇九〜一九九二）岐阜県生まれ、東京大学法学部卒。末弘厳太郎（すえひろいずたろう）の指導をうける。法社会学者

●ピエール・ブルデュー（一九三〇〜二〇〇二）フランスの社会学者。社会的地位や階層、職業による趣味や趣向の違いを研究した『ディスタンクシオン』が有名。元コレージュ・ド・フランス教授

●ウィリアム・シェイクスピア（一五六四〜一六一六）イギリスを代表する劇作家。『ロミオとジュリエット』の他、『マクベス』『ハムレット』『ヴェニスの商人』など有名作品多数

●フランシス・ベーコン（一五六一〜一六二六）イギリスの哲学者。主著『ノヴム・オルガヌム（新機関）』『ニューアトランティス』。「知は力なり」はベーコンのことば

●クロード・レヴィ＝ストロース（一九〇八〜二〇〇九）フランスの人類学者。主著『悲しき熱帯』『構造・神話・労働』。元コレージュ・ド・フランス教授

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

語句

イデオロギー→根本的なものの考え方。その人の行動に関わるほどの主義・主張

蔓延＝まんえん→好ましくないものがはびこる、広がること

テーラー・システム→アメリカの経営学者、フレデリック・テーラー（一八五六～一九一五）が発案した効率的な生産や管理の方法

家父長制＝かふちょうせい→戦前の父系重視の「家制度」。父が家長として家を支配し、長男がその財産も支配力も引き継ぐあり方

勘案＝かんあん→さまざまなものを考えに入れること

至上＝しじょう→この上ないもの、最上、最高（例）芸術至上主義

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）新聞の家庭ランを読む　①卵　②蘭　③欄　④覧　⑤乱
（イ）雑誌の連サイ記事を書く　①催　②載　③際　④栽　⑤採
（ウ）生活の安タイを望む　①耐　②体　③態　④泰　⑤退
（エ）条件により制ヤクされる　①訳　②役　③厄　④躍　⑤約
（オ）人間関係が閉サ的だ　①鎖　②査　③詐　④差　⑤佐
（カ）広大な大陸をセイ服する　①征　②聖　③制　④誓　⑤清
（キ）厳格な規テイに従う　①底　②定　③提　④帝　⑤呈
（ク）様々な事例をカン案する　①官　②観　③感　④肝　⑤勘
（ケ）会議を円カツに進める　①活　②喝　③渇　④滑　⑤割
（コ）関係がケン悪になる　①剣　②顕　③険　④検　⑤件

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1　対比混乱の誤り　……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2　同一性分断の誤り　……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗。同質性分断**ともいう。

3　正しい対比喪失の誤り　……本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「**C↔D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4　不当な全称判断　……本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5　不当な限定判断　……本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょう）があります。例えば本文では「人間関係全般」について書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6　不当な価値判断　（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

7 **部分的指摘の誤り**……本文中では、「**AとともにB**」「**Aと同時にB**」「**AしかもB**」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り**……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なしの誤り**……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1〜8・10〜12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り**……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り**……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢**。小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り**……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる**……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 **比喩による説明は、一段、落ちる**……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　家族論・自己責任論

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

婚姻を社会集団間の近隣友好関係
のなかで考える立場
条件／安定的な関係

- ●ピエール・ブルデュー
- ●ウィリアム・シェイクスピア
- ●フランシス・ベーコン
- ●レヴィ＝ストロース

⇔ 主な対比（主役 ⇔ 敵役1）

⇔ 小さな対比（主役 ⇔ 敵役2）

敵役1＝自己責任論・自由な恋愛

恋愛という名の自由競争
自由な恋愛
婚姻を自己責任と考える立場

- ●林　真理子
- ●川島　武宜
- ●タルコット・パーソンズ

敵役2

戦前の旧民法・家父長制

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《キーワード分類・選択肢》

傍線が引かれた五つのキーワードのうち、筆者が肯定的に使っているのは、ただ一つだけです。それほど、敵役や比較相手がどっさり出てくるということでもあります。文章の読解力とは対比で文章を読める能力だ、ということを語りかけてくるような設問ですね。

さてＡ「『恋愛という名の自由競争』」は林真理子さんの見解として紹介、批判されているものです。恋愛や結婚を「自己責任」と考えるグループのことばです。つまり敵役です。これを選んだりしたら、対比混乱の誤りということになりますよ。

Ｂ「『恋愛結婚』イデオロギー」も同様です。「家の歴史のない米国だからこそ、近代社会で生み出されたにすぎない」発想です。筆者が強調するような、もっと大きな社会関係のなかで恋愛や結婚を考えることをしないグループのことばです。これを選んだら対比混乱の誤りです。

Ｄ「『仲間型』の夫婦関係」もこれまた「自己責任」グループです。受講生みなさんの価値観として、どんなに自由な恋愛や恋愛結婚にあこがれていようと、現代文解答では、冷静に筆者の論理に付いて行ってくださいよ。

Ｃ「家父長制的な『家制度』」は〝敵役その２〟です。恋愛や結婚を自由とか自己責任とは考えないグループではありますが、「旧民法下の『家制度』による青年男女への抑圧」をともなうため、筆者はこれも退けています。

正解は、Ｅ「『婚姻戦略にのっとったゲーム』」です。フランスのピエール・ブルデューの考え方です（お名前からしてカッコイイ）。「家や地域社会、学校、会社などで培われた、人間関係や家と家との関係を円滑に作り上げていくゲーム」とあります。恋愛や結婚を個人の問題とせず、大きな関連事項とともに考える立場です。

問２《空欄補充・選択肢》

敵役の「自己責任」「自由な恋愛」の側のことばが空欄に入ります。なぜなら「『［Ｆ］』という言葉は、ある意味で空語～実は世界中どこにも存在しない事柄だと言っていいのです」と筆者は断じているからです。いいですか、問いのすべてが筆者側のキーワードを問うてくるとは限らないのですぞ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

①は、まず「安定的な条件を満たす結婚相手」が×です。これでは筆者側のキーワードになります。ただちに対比混乱の誤りを構成します。さらに「自分の正直な感情を無視して」も×です。〝正直⟷不正直〟という対比の文章ではないからです。正しい対比は〝自己責任・自由恋愛⟷社会集団・条件〟です。したがって、正しい対比喪失の誤りです。

②はどうか。前半の「自由な感情と判断力をもつ主体者として」は敵役の説明としてOKでしょう。ところが、後半でやっちまいました!「人間関係や家と家との関係に配慮し」は筆者側ですよね。これを対比混乱の誤りと呼ばずして他になんと呼ぼう!

(思わず興奮してしまいました)

③の「協力関係にある家族集団の一員として、その協力関係をさらに強めるために」、⑤の「険悪な関係にある社会集団の構成員として、その関係を修復するために」は、スミからスミまでずずずいっと筆者側の見解です。この問いが敵役を求めているのだ、ということがわかっていれば、シラジラシイ間違いだとわかります。対比混乱の誤りです。関東の難関大学であってもこういうふうにして間違いをつくっているのか、という理解があれば、現代文で合格点を取るのは決して難しくありません。

正解は、④です。「たがいに理性をもつ自由な独立の意思の主体者として、自分の責任において恋愛する」はまぎれもなく敵役ですよね。

問３《空欄補充・選択肢》

『ロミオとジュリエット』という悲劇に関する問題です。ロマンチックですね、と言いたいところですが、ちょっと違います。いえ、だいぶ違います。筆者が主張しているように、伝統的に人々は大きな社会集団や、社会集団間の安定的な関係を大事にしてきました。それをロミオとジュリエットが台無しにしてしまう「悲劇」です。本文には「私は、『ロミオとジュリエット』の世界は、まぎれもなく［G］悲劇だと思っています」とあります。直接のヒントは一つあとの段落にあります。すなわち、「対立している双方の属する社会集団にとって大変な『わざわい』」、さらに「『自分の責任において』恋愛しているつもりが、属する社会集団にとってとんでもない悲劇を起こしてしまう」とあり、これらと同内容の選択肢を選びます。

「『婚姻』が社会集団の合意形成を必要とするのに、幼い無分別な二人が情念のおもむくままにそれを無理に突破しようとして生まれた」の②が正解です。以下、他のものをチェックします。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

①はどうか。「『婚姻』が社会集団の合意形成を必要とするので」はＯＫ。ところが後半の「自己の責任において社会集団の合意にしたがおうとして」がイケマセン。笑っちゃうほどの対比混乱の誤りですね。

③はどうでしょう。「『婚姻』が社会集団の合意形成と無関係なのに」がいきなり×です。関係ありありですから。この時点で記述に反する誤りと言っても、対比混乱の誤りと言ってもいいです。さらに後半の「幼いが分別のある二人が」があきれかえって失笑してしまいます。社会集団にわざわいをもたらしたのですから、分別あると言えるわけないでしょ。記述に反する誤りです。

④はどうか。まず、「『婚姻』が社会集団の合意形成と無関係なのに」が③の前半と同じ間違い。加えて、後半の「二人が自分の責任で社会集団の合意形成を求めた」は、①の後半と同じ間違い。新鮮な間違いが次々出るのではなく、似たようなものが繰り返し出てくることがある、こういうことは知っておきましょうね。解答がスピーディになります。

⑤も「『婚姻』が社会集団の合意形成を必要としないのに」が③④の前半と同種の間違い。さらに後半では「幼く無防備な二人が」がヘンです。〝自己防衛ばっちり⟷無防備〟というような対比はないのですから、正しい対比喪失の誤りです。

問４《全体の理解・選択肢》

筆者の考えと合致したものを選ぶ、正攻法の問題です。①から見ていきましょう。「『自己責任』という視点から就職と結婚を同等視するのは、～誤りだ」という部分はＯＫです。頭としっぽはＯＫです。しかし、中身がいけません。「日本とアメリカの社会の違いを無視している」という箇所がマズイです。ヘンなものを比較してますでしょ。「日本とアメリカの社会の違い」は、正しい対比喪失の誤りです。さらに言うと、今回の日本代表「林真理子」「川島武宜」、アメリカ代表「タルコット・パーソンズ」は同じ敵役です。そういう点では、同一性分断の誤りです。

②はどうでしょう。「自己責任に基づかない単なる情念による恋愛では無責任であり、社会的に認めることはできない」では、「自己責任」が大事ということになってしまいますから、対比混乱の誤りです。

③はどうかな。「人間は交友のネットワークの中でゲーム感覚により結婚相手を探すので」はまあ、よいでしょう。ところが、後半「結婚も自己責任によるゲームだ」とあります。ハァーとためいきが出そうです。「ゲーム」は筆者側、「自己責任」は敵役

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

でしょ。これも対比混乱の誤りです。

④は「人はいつでもいくつかの社会関係の中で生きているので、結婚相手の選択にもそういった要素が影響を与えている」とあり、筆者の見解に沿っています。これが正解です。

⑤を確認します。「自由な恋愛はめったになく、それだけ貴重なものなので」が×です。敵役キーワードを「貴重」とほめてしまいましたね。トンチンカンですね。皆さんも気づきましたよね。こういうトンチンカンこそが対比混乱の誤りと呼ばれるものの正体です。

模範解答

問1＝E　問2＝④　問3＝②　問4＝④

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第一講

（ア）③　（イ）②　（ウ）④　（エ）⑤　（オ）①
（カ）①　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）④　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）家庭欄　（イ）連載　（ウ）安泰　（エ）制約　（オ）閉鎖
（カ）征服　（キ）規定　（ク）勘案　（ケ）円滑　（コ）険悪

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。